

公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10  
TEL(058)244-0150 FAX 244-0151  
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

# 音楽と私

公益社団法人岐阜県交響楽団

理事 井上 豊秋



浜口竜介脚本・監督の映画「ドライヴ・マイ・カー」

を観ました。原作は村上春樹の同名短編小説。村上春樹の作品は初めて読みましたが、容易には理解できない内容と筋書でした。映画も同様で、よくわからないエンディングでした。

文春文庫版には「女のいない男たち」と題する短編が最後にあります。エレベーターの中でよく流れている心地よい「エレベーター音楽」としてパーシー・フェイス、マントヴァーニ、ビリー・ヴォーグが並び、私はこれら

「MIDDLE OF THE ROAD MUSIC」も好きです。

その他にも懐かしいクリフォード・ブラウン、ヘンリー・マンシーニ、ジェファソン・エアプレインなどが続き、著者の音楽の幅の広さを感じました。

中学生時代、NHKラジオで「朝の名曲」を聴いていた私が初めてオーケストラの生演奏に接したのは、高校生の時、父に頼んで連れてもらった鶴舞公会堂でのマントヴァーニ演奏会でした。ヨハン・シュトラウスのワルツやポルカを聴き感動しました。六十年も前のことです。当時はステレオにLPレコードをかけて、ブルーノ・ワルター、エルネスト・アウセルメ、シャルル・ミンシュ、ジョージ・セル、レナード・バーンスタインなどを聴きました。

今と違い、この地域の中学や高校に吹奏楽団などなかった時代から、岐阜県交響楽団は長い歴史を刻んでこられました。

レコードでしか聴いたことのない演奏に生で聴く機会が生じたのは海外生活を始めからでした。一流楽団の入場券は学生でも席さえ選ばなければ、当日券や立見席を安く手に入れることができました。

海外ではこのようにクラシック音楽といえども、肩ひじ張らず、気楽に演奏会をエンジョイできました。その典型は夏の屋外コンサートです。ハリウッドボウルでのズーピン・メータ率いるロサンゼルス・フィル「一八二二年序曲」のように本物の大砲が鳴り響き、火花が打ち上げられるなど臨場感あふれる演奏やデトロイト交響楽団の夏は芝生に寝そべり、ワインなど飲みながらの演奏会は最高でした。ボストン交響楽団のタンゲルウッド音楽祭も有名ですね。この地域に欲しい企画です。

楽譜も読めず何の楽器も演奏できない私ですが、ジャンルを問わず生演奏を聴くだけで幸せになります。しかし、これだけ多くの学生ブラズバンドや音楽大学がありながら、どうして日本の街では生の演奏が聴けないのでしょうか。いつも不思議であり残念でなりません。生演奏があちこちで聴ける岐阜の街にいつかはしたいものです。

こんな私ですが、矢橋さんのご紹介で伝統ある岐阜県交響楽団に関与させていただくことになりました。コロナに災いされて楽団員のみなさまも思い切り活躍できない悩みがあるかもしれませんが、岡本太右衛門名誉理事長が掲げられた大目標と、私が希望する楽団街へ出るの二つが実現できることを願います。高齢者新米ですが、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

(揖斐川工業株式会社 代表取締役 社長)

## 垣内悠希先生インタビュー

今回のプログラムに関しまして、お話を  
お聞かせいただけますか？

ドン・ファンは作品自体が若々しく魅力的な作品です。リハーサルでも言いましたけど、若々しく魅力あるドン・ファンという男性に対し、自分も若い時に共感を持ってやりました。僕自身この曲をやるのが久々なのですが、自分も40才を過ぎて、この曲に対して今の自分にどういことが出来るのかな、と思いますし、また、皆さんと一緒に色々な細かいことをやりながら、最終的にどんな人物像になっっているのかを楽しみます。

ブラームスは自分の中にその響きのイメージがあります。それは、ウィーンに留学していた時、ウィーン・フィルがムジークフェラインで演奏するブラームスを聴くと、どんな指揮者がやってもブラームスの音がするよね、なんて思いながら、そんな青春時代を過ごしたものですから、自分の中にもある程度、ブラームスの響き、感覚があります。その中でも自分なりの響きがあって、それが皆さんと練習していく

中で合った時、最終的に皆さんとどうい響きになっていくかなというのが楽しみにしています。僕の思ってる響き、こういう響きだよなっていう瞬間も少しずつ出てきて、ぜひ皆さんにも楽しみにしていただけたらなと思います。

先生が音楽を作っているらしやる時に、大切になさっていることはどのようなことですか？

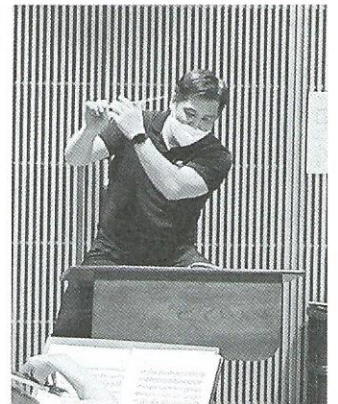
僕が気を付けていることは、自分が作曲家の前には絶対出ない、ということ。なので、何か特殊なことをしようと思ってることは一つもありません。作曲家が、楽譜から語り掛けてくれているものをどこまで深く自分が理解できるか、というのがいつも課題ですけど、いつも自問自答しながらですけど、今回も作曲家が楽譜を通して語りかけていることを、一生懸命音にしようとしています。曲の解釈とかって世の中にはあつたりしますけど、「僕のブラームス」には絶対したくない。ブラームスはブラームス、と

いう中で、個性というのは結果的に滲み出ちゃうものだと思ってるから、それは別に自分から出そうとは絶対思っていない。そうあるべきであると信じているので、それは一番気を付けていることです。

また、ブラームスもシュトラウスも、モーツァルトからずつつながっている世界というのがあって、それは和声感覚です。その和声を通して表現しようとしていることが確実にあるんですよ。それを僕らがちゃんと理解して、なんでこういう風に書いてるのか、ということを理解した上で音にすることが大切です。シュトラウスはモーツァルトをすごく尊敬していて、「フィガロの結婚」を書くようとして、結果「ばらの騎士」が出来上がったし、ブラームスも同じような調性感の世界で書いていることが凄く解る。だから和声感っていうのは凄く大事。皆さんのスローガンと一緒に、あの3つのスローガンっていうのは、素晴らしいと思う。和声感、アンサンブルする上では一番大事なんじゃないかっていうのは僕も思うくらいで、僕はあのスローガンがどうやって生まれたのかわからないけど、共感もするし、素晴らしいと思う。それを大事にしてさえすれば、大きく間違つた道にははまらずに、音楽に向かってくいと思えます。

岐響に對しまして、どのようにお感じに  
なられましたか？

初日はまだ判断つきかねていましたが、回を重ねてくる中で、例えば和声感の話とかを皆さんにしていくと、やっぱりそれを一生懸命音にしようとか、あ、その音だな、って感じることもあるので、すごく可能性は感じるといえるか、それを続けていったら、もつともつと素晴らしいオケになつていくんじゃないかなって思います。それに、すごく長い歴史があるじゃないですか。そこには、プラスの面があると思うんです。プロでも人ってどんどん変わっていったりする中で、岐響は比較的長い時間を共有してる人が多くいらつしやる、ずっと続けていらつしやつてるといことが、なかなか無いことで、素晴らしいと思つて。それは強みにしてほしいです。その良さは、



よく知ってるからこそ、コミュニケーションを活かせることがたくさんあるはずだから、大事にしていきたいなと思います。それがうまくはまると、とってもいい音ができるオケだっていうのが僕の印象です。

岐響の現在の課題はどのようなことだと思われませんか？

自分たちの音ってどんなんだろう、ということを持てると思いますよ。それは時間がかかることもかもしれないけれど、例えばブラームスならブラームスで、皆さんだから出せる音っていうのがあるはずなんです。音の可塑性をもっともって広げていったら、いいんだと思う。例えば僕は今日の練習で、教会の響きの話をしましたけれど、ウイーンのシュテファン寺院に行つて、礼拝や聖歌を聴くと、その音のイメージを感じるんです。そういう音のイメージの引き出しを、皆さんがもっともって人生の中で、溜めていってほしいなと思います。それは、音楽とかオケの音、プロオケの音、というのだけではなくて、例えば自然界の中の音でも、もっと想像力が広がっていくと思うんですね。即物的に音を出すっていうのは僕は一番もったいないと思います。そうやってできた皆

さんでしか出せない音というのを追いつめていって欲しいなと思うし、あの瞬間いい音してたよね、っていう共有を、皆さんがどんどん積み重ねていくと、自分たちはこういう音だというのができ上がっていくと思います。

これはアマとかプロとか関係なくて、昔は特にあったんですね、そのオケのカラーというのが。今はその差があまりなくなってきたけど、昔はもっとオケによって出てくる音って全然違っていました。例えばウイーンフィルだったら、ウイーンフィルのモーツアルト、ウイーンフィルのブラームスといった、ウイーンフィルにしか出せない音がありました。ムラヴィンスキーとサンクトペテルブルク・フィルのモーツアルトというのがとんでもなかったんですよ。僕は音源しか聞いてないけど、なんじゃこれは！っていう。だけど、それでいいんですよ、シオスタコーヴィチを演奏すると、もう、他には絶対出てこないような音がある。そっちのほうが僕は好きっていうか、誰がやっても同じ音になるんだしたら、それはあんまり、って思っていますから。こんな自然の中ではなくまれた岐響ならではの音というのが、皆さんの中から出てきたら、それがもっともっていい方向に広がっていったら、本当に素敵だろうなと思います。

先生が指揮者になられたきっかけはどのような事でしたか？

色々な事が重なったのですが、一番は、中学生の時から、初めてオペラを見たのですが、それがクライバー指揮のR・シュトラウス「ばらの騎士」だったんです。本当に素晴らしかった。こういう思いを、聴いてる人にさせることができる、そんな指揮者ってすごいなって思つて、自分もそんな指揮者になれたらいいなって思いました。それと、父は作曲科を出ていますが、指揮者大好きなんです。父からは僕が小学生くらいの時からずっと、メンゲルベルクやフルトヴェングラー、チェリビダッケとかね、指揮者っていうのはこうでああで、みたいな話をずっと聞かされてたから、指揮者っていうものへの意識はありました。

先生はウイーンに留学なさっていますね？

日本の藝大を出た後、ウイーンに留学しました。その時の家は、ずっと今でも借りっぱなしです。指揮科を出てからもコレペティを学びました。コレペティはオペラの伴奏で、昔は向こうで指揮者になるには、コレペティから

始めるんですよ。オペラの現場でたき上げです。

ウイーンに行つて思つたのは、言葉と音楽がとても結びついていること。むこうの音楽にはドイツ語のベースがあつて、ベートーヴェンもそうだし、ブラームスもそう。日本語は母音が必ず後ろに来ますが、ドイツ語にその感覚はないんですよ。ドイツ語のイントネーション、流れ方っていうのは音楽においてこそつくりそのままです。ドイツ語を知らない、ドイツ語圏で作られている音楽って、ほんとにちゃんとは理解できてないと僕は思っています。少なくともそれを目指さないと、見えてこない。オペラはそこにテキストが乗っているからよりわかりやすい。しゃべるように歌うと、そういうフレージング、イントネーションになります。

音楽って、音以外のこと、例えば美しい景色とかいろいろなことがあつて初めてそれが音になるんだろうなと思います。こうなんだっていうことではなくて、それは自ずから滲み出てくることなんだと思います。

本日はお忙しい中、ありがとうございます。

インタビュアー オーボエ 坂 綾香

# 「ナナゼロプロジェクト活動便り」

この連載も今回で4回目となりました。70周年に向けたこのプロジェクトもいよいよ佳境に入り、それぞれのチームでの取り組みの成果が出てきています。

## ■音楽技術向上チーム

坂 淳子

これまで「音楽技術向上」のためにどんな取り組みをしていくかについて書いてきました。

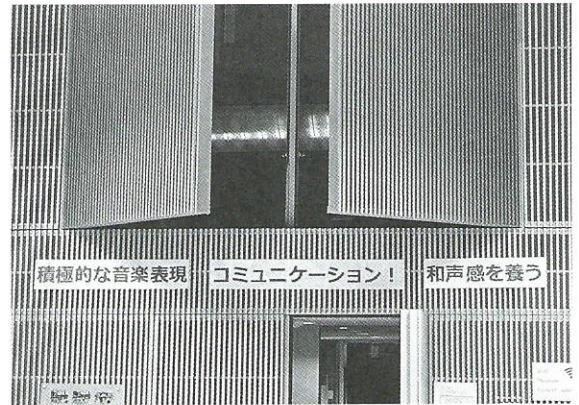
今回は、それによってどんな成果が出てきているかの経過をお知らせしたいと思います。

毎定期演奏会ごとに曲目や課題に合った目標を掲げました。期間中には中間評価を行い、それぞれがどのくらい目標を意識できているかを明らかにし、今一度見つめなおし取り組みをより工夫をし、演奏会終了後にはどのくらい達成できたかの自己評価をし集計しました。そこから浮き彫りになった課題と、指揮者やトレーナーの先生方からいただいたアドバイスや課題を次

の目標に盛り込んでゆくという形で取り組んできました。

プロジェクトの始まりの第95回定期演奏会ではブラームスやモーツァルトを取り上げ、目標を【骨格と土台の確実な演奏と、確かなアンサンブル】とし、まずは骨組みから作っていきましょうということからスタートしました。ドヴォルザークを取り上げた第96回定期演奏会では、【フレージングを意識した積極的なアンサンブルと、バランスの取れた演奏】。そこで得た課題を次につなげる意味で第97回定期演奏会には【プレスや拍子感の共有、息遣いを意識したフレージング、調和の取れた演奏】という目標のもとに取り組みしました。

自己評価の結果はポイント制で分かりやすく比べています。第95回定期は、目標に対する団員の意識の統一や、新態勢への順応が不十分で、《46・8ポイント》でした。第96回定期においては、団員の意識が徐々に変わり、《102・6ポイント》と大きく上昇しました。第97回定期ではほとんどの団員が初めて演奏するハチャトウリアン作曲の「ガイヌ」に取り組んだことなども



あり、《65・1ポイント》となりました。目標の内容によっては達成感を得にくいこともあるなど、一概に数字での結果では図れない面もありますが、少しずつ取り組みの成果が表れてきているように思います。

さて、今回の第98回定期演奏会の目標は【積極的な音楽表現・コミュニケーション・和声感を養う】となっています。R・シュトラウス作曲の「ドン・ファン」は圧倒的なサウンドの中にも非常に緻密なアンサンブルを必要とされます。また、ブラームスはしっかりと骨組みの中に積極的な音楽表現を求められます。グリーグのピアノコンチェルトは高木竜馬さんの美し

いピアノとどれだけコミュニケーションできるかにかかっています。本日は5か月間かけて取り組んできたその成果をどうかお聴きください。そして、いよいよ次回の岐響70周年記念演奏会(第99回定期演奏会)へと繋げていきたいと思っています。今後とも岐阜県交響楽団をどうぞよろしくお願いたします。

## ■地域社会貢献チーム

杉山 浩一

『地域社会への貢献』の活動状況を紹介します。

まず、『岐響まちかどコンサート』については、9月23日(金)『長良特別支援学校』と、11月11日(金)『美濃加茂市文化会館ロビー』で開催しました。特別支援学校では、同校PTA企画で、児童生徒や保護者、地域の方との交流を目的とした「ふれあいの日」に金管五重奏をお招きいただきました。新型コロナウイルス感染状況から、密を避けたオンラインでの開催ではありましたが、画面越しにも児童生徒のみなさんの楽しんでくださっている様子が身体の動きや表情から伝わってきました。また、美濃加茂市文化会館でのコンサートは、同会館が毎月第二金曜日

に実施するドリムコンサートの一環として、前半はチェロ・アンサンブル、後半は金管五重奏による演奏を行いました。

次に、『こんにちは！岐響です』コンサートについては、10月2日(日)に、揖斐郡大野町「総合町民センター」で開催しました。岐響団員であり、今回指揮者を務めた田中陽治がこのコンサートのために作曲した「こんにちは！岐響ですテーマ」に始まり、交響詩「フィンランディア」、岐阜県出身のピアノリスト林めぐみさんによる、グリーグ作曲「ピアノ協奏曲イ短調より第一章」など盛りだくさんの内容でお届けしました。お客様にも指揮者コーナーや手話で参加するなど、会場が一体となった心温まるコンサートとなりました。マスク越しにも会場に越しの皆様の笑顔が感じられ、団員一同改めて感謝の気持ちをもってこれからも真摯に音楽に向き合っていきたいと感じました。

さらに、地域の青少年育成のための事業としては、『集まれ、ちびっこリスト』という企画で、幼児から小学校低学年のヴァイオリン奏者を対象に、来年3月のファミリーコンサートで共演する方向で、現在チラシを配布して募集しています。

こうした活動を通じて、将来の岐響ジュニア・岐響団員への間口を広げる

とともに、公益社団法人としての活動目的である『演奏活動等を通じて岐阜県の芸術文化の普及と向上発展に寄与すること』に貢献したいと思えます。

今後は、12月11日(日)「岐阜駅アクティヴGであい広場」、3月26日(日)「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(空宙博)」での『岐響まちなかコンサート』を予定しています。

### ■岐響PRチーム

松浦 智美

○創立70周年記念シンボルマークの活用

来年の創立70周年記念事業をより一層盛り上げていくため、シンボルマークを活用した周年グッズとして「ピンバッジ」を作成しました。創立70周年の年である2023年(令和5年)までのすべての演奏会で、各々が襟元や胸元等にピンバッジを身に付けて演奏しています。このロゴの入ったピン

バッジを身に付けるたびに、70年という年月を支えてくださった方々への感謝と音楽ができる喜

び、そして、今向き合っている音楽を更に高めよう！と背筋が伸びます。

○SNSを通じた岐響PR

岐響ではFacebookとTwitter、Instagramを通じて練習や演奏会の様子、演奏会の聞きどころなどを発信しています。週に1回を目安に、私たちの岐響の活動を身近に感じていただけるような楽しい投稿を企画しています。

活発な情報発信によつてか、最近ではSNSを閲覧してくれた若手の入団者も増えてきており、また、SNSを閲覧して演奏会に来てくださるお客様もいらつしやるという点でも手ごたえを感じています。

是非多くの方々にご覧いただき、フォローしていただけるとうれいす！



たかさんのフォロー、お待ちしています♪



○岐響紹介リーフレット

創立70周年を迎えるにあたり、通常の演奏会プログラムとは別に、岐響の歴史や活動をまとめてご紹介するための「岐響紹介リーフレット」を作成しました。先日、大野町で初めて開催した「こんにちは！岐響ですコンサート」やまちなかコンサートでの配布、本日の定期演奏会でもプログラムと一緒に配布しています。

リーフレットを通じてご友人やお知り合いに岐響をご紹介いただき、ぜひお誘い合わせのうえ演奏会にご来場ください！

私たちの目的は創立70周年を機に、より多くの皆様に岐響を知っていただき、岐響が岐阜県の芸術文化のシンボルの存在となることです。約1年半前からチームを立ち上げ、上記にあるように具体的な活動についてもほぼ順調に進めることができました。

今後も岐阜県の芸術文化のシンボルの存在を目指し、団員一同、一丸となって活動して参ります。

# 楽器別。パート紹介 トロンボーン編

トロンボーン最大の特徴は、他の

金管楽器がピストン・ロータリー等の機械的な機構によって音程を変えるのに対し、スライドという物理的な機構によって音を変えることができるという点です。その歴史は古く、旧約聖書の時代から「神の声」と位置づけられ、教会で合唱の補助楽器として使用される等、多くの宗教音楽で活躍してきた神聖な楽器なのです。

オーケストラの中では、力強いサウンドで曲を盛り上げることも多いのですが、トロンボーン吹きの醍醐味は「コラール」です。これは全体が静かな中でトロンボーンが和音を奏でる場面のことで、コラールが美しく決まった時は、まさに「神の声」。天使が舞い降りてくる光景が目に見えます。本日の演奏会では、ブラームスの交響曲第 4 番、第 4 楽章の中盤にトロンボーンのコラールがあります。皆さんのもとに神の使いをお届けできるよう、精一杯演奏します。

## トロンボーンあるある

今岡 聡子

### ◆あるある 1 「二つの派閥」

トロンボーン奏者には、二つの派閥がある。inBb派とinC派である。不思議なことに、トロンボーンはBb管なのだが、記譜はinCなのである。これは、トロンボーンの世界と関係しているのですが、inBb読み派は、常に移調して譜読みをしていることをご承知おきいただきたい。特に#系に滅法弱いのだ。近年では、このような苦労をさせまいと、中高の吹奏楽部でも基本的には実音読みをするようになってきている。そう、Bb読み派はもはや絶滅危惧種なのだ。岐響トロンボニストにも二人：どうか温かく見守っていただきたい…

### ◆あるある 2 「ハ音記号」

トロンボーンの世界は前述の通りinCであるが、大抵の場合は1番奏者はアルト記号2番奏者はテナー記号、3番奏者はバス記号で書かれている。そのため、ピオラさんたちにやらせると親近感をもっている。一方的だが(笑)。そして、初めてオーケストラ

でテナー記号に出逢った時、ミスプリントか?と思ったのは、筆者だけではないはず…ん?筆者だけかも(汗)

### ◆あるある 3 「世界中どこへいっても」

スライドを動かして音程をとるトロンボーン。明確な印があるわけでもなく、倍音によっても変化する。かなり繊細な…いやファジー???なポジショニング。それ故か、トロンボーン奏者は世界中どこへいっても大らかで寛容(無論例外もある)。

そしてまた、プロ奏者の多くも自身の経験からこんな言葉を口にする：「トロンボーン奏者は世界中どこへいっても大酒飲みである」。真偽はいかに…

### ◆あるある 4 「コツコツコツコツ…」

旋律を司る機会はごく稀で、どこで吹いたらよいのかを掴むのが容易ではない曲も多い。

何百という休みを数えられようもなく、曲全体の流れを掴むより他にないのだ。そのため、初めての合奏前にはスコアを片手にもう一方で拍をとりながら、何十回となく聴く。コツコツと音を立てながら…。しかしながら、そんなトロンボーンの色とハーモニー、生かされ方が大好きな私たち。オケの中に溶け込むように神経を張り巡らせ、オケ全体を

スコアを見るかのように見守っている(聴き入り過ぎて、少ない出番、うっかり入りそびれることも…泣)。

### ◆あるある 5 「ともかくみんな」

音色やハーモニー、スタイルッシュなそのフォルムだけでなく、我々は皆、やはりその役割が大好きなのだ。個々の音ではなく、パートの音色と響としての結束力は他にもさまざまあるネタは語ればキリがない。

気になったら、お声かけください。集まれば止まらない、マウスピースやロータリーのお話もまだまだたくさんご用意いたしております。

それでは本日、オーケストラの一部として溶け込む心地よい音色を目指して…心を込めて演奏します。

## 私とトロンボーンとの出会い

國枝 重喜

私のトロンボーンとの出会いは、中学2年生の春、音楽の先生から「トロンボーンをやってみないか。」と声をかけていただき、当時、週1回あった音楽クラブに入ったのがきっかけです。音楽クラブは、毎年4月にメンバーが決まります。練習は、週1回の授業と

夏休集中練習のみで、出番は、体育大会のみでした。入場行進曲と開閉会式の式歌を演奏するのみだったのです。地域の運動会でも演奏しました。

そのバンドでは、マーチの演奏が中心でしたが、高校で吹奏楽に出会い、訳あってトランペットを吹き、学生では、オーケストラでトロンボーンを吹きました。最終的に、トロンボーンが合っていると、続けてきました。今は、ハーモニーに入り込んで吹けるよう心掛けています。

内藤 真史

私がトロンボーンを始めたのは、高校のオーケストラ部に入部してチューバから転向した時でした。当時のオケ部ではチューバの採用枠がなかったため、「金管どれかに転向するか……!」じゃあ上手い先輩がいるトロンボーンだ!」くらいの軽い気持ちで始めました。初めて乗った曲がブラームスの交響曲第一番で、休みの多さに衝撃を受け、「やっぱりトランペットかホルンにしておけばよかったかな」と思ったのも今では懐かしいです。出会いはそんな感じでしたが、ハーモニーを決めたり、カッコよく強奏を決めたりと、出番の数を覆すくらいのトロンボーンの魅力に気づいたらどっぴりハマって

おり、大学時代も、社会人となり縁もゆかりもなかった岐阜に転動しても、知り合いもいない中勇気を出して飛び込んでまでもオケをやっています(入団させていただきありがとうございます)。そんな岐響1年生の私ですが、どうぞよろしくお願いします。

山田 哉

トロンボーンを始めたきっかけは中学の部活です。トランペットを希望したのですが希望者が多く、じゃんけん(ジャズ)で負けてトロンボーンになりました。それ以来40年弱、この楽器を続けています。高校でも吹奏楽部、大学に入ったら管弦楽団に所属し、就職と同時に当楽団に入団、現在に至ります。

トロンボーンの魅力は、やはりハーモニーです。3人・4人で和音を奏でたり、他の楽器を支えたりすることが多くて、そこに生きがいを感じています。それ故、目立つソロが回ってきたり、「二人で何かやってー」と言われたりすると、めつぼう弱いのがトロンボーン吹きの性だったりします。

吹奏楽、オーケストラに加え、最近ではジャズバンドにも参加させていただきました。この楽器を担当したからこそ、素敵な音楽や皆さんの仲間に出会うことができました。今では「あの

時じゃんけん(ジャズ)に負けてよかった……」と思っています(笑)。

若山 浩樹

私は、以前から大学に入学したらオーケストラに入団することを決めていました。でも楽器はほぼ初心者でした。すると大学オケにいた高校の先輩であるGさんから、「トロンボーンにすると、冬の演奏会のメインに乗れるかもよ」と誘われ、私はすぐに「はい、トロンボーンでお願いします」と答えていました。私のトロンボーン歴は、そこから始まりました。因みにその年の冬、私は立派に(?)シベ2を吹きました。

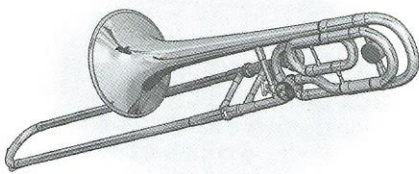
私が吹いているバストロンボーンは、トロンボーンの中でも最低音を受け持ちます。

**チューバという楽器**  
杉山 浩一

金管楽器の中で最も大きく、低い音域を担う楽器であり、比較的新しい時代にできた楽器のため、オーケストラでは出番が少ないが(今回定期の出番は1曲)、サウンドに厚みを持たせる役割があります。

変口調(B♭管)、ハ調(C管)、変ホ調(E♭管)、ヘ調(F管)の調性を持つ楽器があり、国柄や楽団の伝統、奏者のスタイルによって楽器を使い分けています。アメリカ、日本など世界のオーケストラの主流はC管チューバですが、岐響での演奏では、基本的にはドイツ・オーストリアのスタイルで、F管を主に使用しつつ、曲によってB♭管に持ち替えており、時にはオペラでの低音楽器であるチンパツも利用します。

楽譜は全て実音(C調)で記譜されているので、使用する楽器に応じて楽譜の読み替えが必要であり、F管とB♭管の持ち替えが必要な際には、楽譜の読み替えと楽器運搬が大変ですが、縁の下の力持ち的存在のチューバ奏者の役割を私は気に入っています。



## 今年度行われた2つの演奏会から

ご来場の皆様から多くのコメントをいただきました。その一部をご紹介します。

### 第97回定期演奏会アンケートより

(2022/6/19 不二羽島文化センター)

「フィンランディア」平和の尊さ、フィンランドへのエール、ヴァイオリンを始めとする大きな幸せに包まれたように感じ、涙が出ました。このような「場」にいられる幸せを感じずにはられません。岐響の出發を祝うような気持ちにもなりました。プレトークはよかった。毎回あるとよいなと思います。

(県内、60代、女性)



今だからこそ、ステキなプログラムでした。演奏もとてもよかったです。久々に演奏会に足を運びましたが、音楽の力はすごいなと改めて感じさせられました。

(各務原市、30代、女性)

ガイーンの演奏がとてもよかったです。岐響はこのようなドラマティックで力強い演奏が似合うと思いました。井村さんが曲についてお話をしてくださるのも、とても分かりやすく、嬉しいです。いつも楽しく聞いています。

(40代、女性)

初めてで敷居が高いと思いましたが、楽しく聞けました。

(岐阜市、20代、男性)

デジタル音にあふれる生活のため、生の楽器の音色はとても深く身体に響いて気持ちよかったです。もっと聴きたかったです。ありがとうございました。

(岐阜市、40代、女性)

～川柳から～

- 徹夜明け 眠気もふきとぶ ハチャウリアン (20代、男性)
- ここに居て 音楽聴ける 幸せを (60代、女性)

### 令和4年度実演芸術アウトリーチ事業 アンケートより

(2022/7/10 飛騨市立宮川小学校)



～子どもたちの声～

- すごい音がしてさいしょはこわかった。なれてきたらたのしかった。
- 知らないがっきやサンドパーをがっきにしてすごかったです。しかもとっても良かった曲は、宮川小学校の校歌です。ピアノしか校歌をきいたことがなかったのですごかったです。気持ちをこめてやることになにもきれいな曲になるんだなと思いました。
- つばさをくださいで手話をして、曲が速くて追いつけませんでした。なのでリベンジしたいです。またえんそうを聞きたいです。

～保護者・先生の声～

- 心がふるえた時間でした。参加型もあり胸にぐっとしみわたる時間もあり、あっという間に時間が過ぎました。感動とはこういうものなのかと感ぜられるすてきな空間でした。
- 全校児童7人の子どもたちにとって、貴重でぜいたくな時間を過ごすことができました。とっても素晴らしい演奏をありがとうございました。7人みんなが演奏に参加させていただけしたこと、本当に感謝しております。子どもたちの小学校での楽しい思い出の一つになりました!

